

日本小児救急医学会 災害医療委員会

# 東日本大震災継続支援ワーキンググループ報告書 (第6期)

日本小児救急医学会 災害医療委員会  
東日本大震災継続支援ワーキンググループ  
東京都立小児総合医療センター 救命・集中治療部 集中治療科  
齊藤 修

## ワーキンググループメンバー

埼玉医科大学総合医療センター 小児科	板倉 隆太
公立相馬総合病院 小児科	伊藤 正樹
岩手県立大船渡病院 小児科	瀧向 透

## 要 旨

設立6年目を迎えた「東日本大震災 小児医療 復興新生事務局」は、平成29年3月までにのべ1,843日(平成28年度実績453日、支援医数28名)の支援調整を行った。また東日本大震災ならびに平成28年台風10号により甚大な被害を被った久慈保健医療圏の基幹施設、岩手県立久慈病院が平成29年11月28日、10番目の支援医受入れ施設として参画した。災害が日常化する本邦において全国の善意に支えられる本事業が、一つの地域医療支援モデルとして確立するまで、ほそくながく継続して参りたい。

## はじめに

気象庁統計史上初となる東北地方太平洋側より上陸した平成28年台風10号は、久慈市で1時間当たり80ミリの猛烈な雨量を記録、その上暴風と9.0メートルを超える波浪は、多くの河川をも氾濫させた。岩手県だけでも死者・行方不明者23名、全壊・床上浸水住家700棟を超え、東日本大震災後NHK朝のドラマで地域の再活性化に弾みを付けた久慈市周辺に再び自然が、猛威を振るう形となった。

それでもなお久慈市災害ボランティアセンターは、集まる3千名のボランティアで400件を超える依頼を開設2ヶ月で完遂した。復興への取り組みを掲載した久慈市広報には大人のみならず、同市内の中学生が泥の掻き出しを行う姿が掲載されている(写真1)。災害が日常化する中、自助・共助の力は、子どもをも巻き込み、地域に確実に根ざしはじめた。

## 1. 東日本大震災小児医療復興新生事務局 支援調整実績

(資料1 第8回事務局議事録, 資料2 活動状況報告書, 表1, 2, 3)

平成29年3月末時点でこれまで調整した支援医受入

日数は、のべ1,843日(福島305、宮城185、岩手1,353)、年度別では453日(支援医数28名)にのぼるが、新規応募数は21件と半減し、震災風化と共に低下する。

それでもなお、24時間365日のオンコール体制を堅

写真1 久慈市広報2016年9月15日号

17/ 浸水した住居から荷物を運び出すボランティア。高校生や大学生も参加し、7日までに延べ910人が活動しました。18/ 7日、ボランティアとして中の橋から駅前まで地域で泥かきや清掃を実施した長内中学校の3年生



持する地域の小児医療関係者の支えとなるよう、全国の心をあつめ、「ほそくともながく」本事業を継続する。

表1 年度別実支援日数

年度別	岩手	宮城	福島	合計
H.24	19	2	2	23
H.25	224	43	102	369
H.26	339	41	49	429
H.27	436	48	85	569
H.28	335	51	67	453
合計	1,353	185	305	1,843

表2 施設毎支援受入件数

	岩手県立遠野	岩手県立釜石	岩手県立高田	岩手県立大船渡	岩手県立胆沢	岩手県立磐井	石巻市夜間急患センター	公立相馬総合	公立岩瀬	福島県立南会津	条件不一致	合計
岩手県	107	1	40	57	125	131					8	469
宮城県							185				20	205
福島県								18	179	2	9	208
											3	3
合計	107	1	40	57	125	131	185	18	179	2	40	885

表3 年度別新規申込数

年度別	岩手	宮城	福島	合計
H.23	1	0	0	1
H.24	19	6	4	29
H.25	21	9	11	41
H.26	20	15	23	58
H.27	21	10	11	42
H.28	9	2	10	21
合計	91	42	59	192

## 2. 岩手県立久慈病院の参画 (写真2, 3)

岩手県保健医療計画(平成25-29年度)によると久慈保健医療圏(久慈市, 普代村, 野田村, 洋野町)の人口は60,861人, 年少人口は7,755人(12.7%)(65歳以上は17,743人(27.9%))であるが, 小児科医数は4人(病院2, 診療所2)と人口当たりの小児科医数は県内で最も少ない。そのため県北唯一の救命救急センターを有する岩手県立久慈病院は, 小児の三次救急医療にも対応すべく, 24時間365日のオンコール体制を堅持しなくてはならない地域基幹病院である。

東日本大震災当時, 比較的人的被害は少なかったものの久慈国家石油備蓄基地や造船所のある半崎地区の津波高は8.4mとなり, 同市内小中学校6施設と共に大きな被害を受けた(表4)。その後NHK朝ドラ「あまちゃん」のロケ地になるなど「北限の海女」や, 国内最大の琥珀の産地として復興を目指していたが, その矢先の先述の台風被害であった。

写真2



会議後小児科外来にて 前列左 院長 吉田徹先生, 真ん中 小児科長 遠藤正宏先生

写真3 久慈病院外観



現在同病院に勤務する小児科医は震災当時, 岩手県立大船渡病院で勤務された遠藤正宏医師1名のみで, 年間入院数1,363, 外来数9,648, 救急外来数1,631(救急車受諾数56)に及ぶ小児患者を関連大学医局の応援と同院職員一丸となった体制で診療する。こうした状況を受け, 本WGメンバー測向は, 岩手医科大学小児科学講座 教授 小山耕太郎先生にご協力・ご指導を仰ぎ, また久慈病院院長 吉田徹先生, 小児科長 遠藤医師と協議を重ね, その参画を決定するに至った。

表4 久慈市保健医療圏における東日本大震災による被害規模

	久慈市	洋野町	野田村	普代村
死者	2	0	38	0
行方不明者	2	0	0	1
負傷者	10	0	19	1
家屋倒壊	278	26	479	0

### 3. 一般社団法人岩手県医師会による「東日本大震災対応の記録」より

約680kmに及ぶ岩手の海岸線は、あの日、リアス式という独特の地形により高さを増した津波に襲われた。沿岸北部久慈保健医療圏、野田村唯一のクリニックは、無医村だった同村に平成17年に開業、以来唯一の診療所として地域に根ざした医療活動を行っていたが、津波により全壊、「先生は死んだ」と思った住民が少なからずいたという。「正直に言えば、ここを離れることも少し考えた」という同クリニック院長は、後年、「いてくれてよかった」という地域の人たちのそんな言葉がここにいる理由かも知れないと述べている。無医村からの脱却、ただ「地域のためにある」、地域医療の真の姿がそこに見えるのではないだろうか。

こうした証言は、震災当時、内陸部と沿岸部を結ぶ「肋骨対応システム」を迅速に構築し、乳幼児健診や休日診療支援を積極的に行った岩手県医師会の対応記録誌より抜粋、概要を記載させて頂いたものである。本記録誌には、陸前高田市で開業され、岩手県立高田病院小児科医大木智春先生とともに小児科診療にあたられていた大町クリニック村上静一先生への追悼文などと共に貴重な記録が多く掲載されている。

### 4. 支援医受入施設

平成30年1月現在の支援医受入施設は、岩手県立久慈病院を加え10施設となる。

- ・岩手県6施設 岩手県立大船渡、高田、遠野、磐井、胆沢、久慈病院
- ・宮城県1施設 石巻市夜間急患センター
- ・福島県3施設 公立相馬総合病院、公立岩瀬病院、福島県立南会津病院

### 5. 第4代東日本大震災小児医療復興新生事務局 構成員

岩手県 医師支援推進室  
 医師支援推進担当課長 多賀 聡  
 (第4代 事務局代表)  
 参 与 山本 昭  
 宮城県 保健福祉部医療政策課地域医療第2班  
 課長補佐(班長) 須藤 敬行  
 同主査 羽柴 功子  
 福島県 保健福祉部地域医療支援センター  
 主幹(医師確保担当) 佐久間 止揚  
 同医療人材対策室  
 主任主査 十文字 高志

### 6. 終わりに

かつて無医村だった野田村の保育所は津波により木造平屋を流失したが、81人の園児と14人の職員は全員無事であった。偶然にもあの日は、月に一度の防災訓練の日であり、訓練に備えて子どもたちを昼寝から起こしたちょうどその時、揺れに襲われたのだった。10人乗りの手押し乳母車の購入や避難経路の見直しを事前に進めた同保育所は、混乱無く避難を完了、門柱のみを残した保育所は内陸部に再建したという。現在では子どもたちの明るい声が響いている(岩手県東日本大震災津波の記録)。

診療所が1つしかない村にも子どもがいる。それを支える医療関係者がいる。同医療圏基幹病院岩手県立久慈病院の参画を得て、ライフラインとしての小児地域医療を堅持すべく、ほそくながく本事業を継続して参る所存である。

### 7. 謝辞

6年にわたる本事務局活動には、日本小児科学会会長 高橋孝雄先生(慶応義塾大学病院小児科教授)をはじめ、福島県立医科大学教授 細矢光亮先生、東北大学小児科教授 呉繁夫先生、そして岩手医科大学小児科学教授 小山耕太郎先生など多くの小児医療関係者のご支援が必要不可欠であった。ここにあらためて感謝の意を表すと共に、ほそくながく本事業を継続できるよう励むことを誓う。

### 8. 経時的活動記録(訪問先、及び面談者)

2017年03月30日

14:00 臨時事務局ミーティング  
 (東京都立小児総合医療センター内)  
 岩手県医師支援推進室  
 医師支援推進担当課長

福士 昭  
 (第3代 事務局代表)

2017年4月15日(第120回日本小児科学会学術集会内)

14:00 岩手医科大学小児科学講座  
 教授 小山耕太郎

2017年5月11日

14:00 臨時事務局会議(福島県立医科大学)  
 福島県 保健福祉部地域医療支援センター

主幹(医師確保担当) 佐久間止揚

2017年7月13日

13:00 第8回東日本大震災小児医療復興新生事務局会議 (福島市 杉妻会館)

福島県 保健福祉部医療政策課医療人材対策室  
主任主査 十文字高志

宮城県 保健福祉部医療政策課  
課長補佐 (班長) 須藤 敬行

同上 主査 羽柴 功子

岩手県 医療局医師支援推進室  
参与 山本 昭

医師支援推進担当課長 多賀 聡  
(第4代 事務局代表)

2017年11月28日

11:00 岩手県立久慈病院

院長 吉田 徹  
小児科医長 遠藤 正宏  
事務長 盛合 健  
事務局代表 多賀 聡

11月29日

9:00 岩手県医療局

医療局長 大槻 英毅  
医療局次長 千葉 雅弘

17:00 岩手県立大船渡病院

事務局長 佐々木勝広

11月30日

9:00 岩手県立大船渡病院

院長 伊藤 達朗

11:00 岩手県立遠野病院

小児科長 木元 康生

13:00 岩手県立胆沢病院

事務局長 佐藤 秀明

16:00 岩手県立磐井病院

小児科長 丸山 秀和

小児科 矢野 潤

小児科 東梅ひろみ